

高雄
製造手続

0857

高雄甲第一 辦ノ六

淨寫 校合 發行 三月廿日 主務

普五五六
三月九日

官房長

特

特課僚

聯帶

明治十九年三月廿五日

主務

大臣

次官

山

艦政局長

造船課長

高雄艦承線際はク帯之件

高雄艦兩舷各線際ハ其内都之各肋
材間ニゴルクニテ真先ニ之ニテ艦俣首尾
ニ延長セシメ以テ一ノゴルクニ帯トナシテ
遂典砲丸小口至砲之彈丸命中スル時海

0858

江 年 集

水ノ浸入ヲ防止スル目的ヲ以テ計畫
セシモノトシテ此コルク事ハ未タ其効用
如何ヲ実格セシモノトシテ依テ其年
十月才回至船局方減格執事ノ係
上申シ奉り普中二五七三号ヲ以テ亦之
有テ依リ鎮守府等へ提議ト上テ減
減格物ヲ製表佐以テ其効程方減
工ヲ付即付ニ越中急務ノ実格執事
以テ其年其後減格事ノ通コレテ
到ル時減コルク事ハ其年其後減格
ト其思ハル事存船名簿等ハ減格
ヲ減格ト更ニ其年其後減格事
可然思考ル其年其後減格事

0859

案ハ具レ仰高裁トヤ

但存艦尾ノ事材料少價ハ足量ハ五百圓程リ要ト已
録守方ハ向分ハ注文係ニシテコトクニ如キハ他ニ需用ノ余
ナキモノハ得共全廢物ニ可成モノハ望ミ且後事
ヲ廢スル中ニ生工費ハ足量計ニ圖程ヲ減カク可成也

抄

高雄艦西舷多線際ニ際キコルク等ヲ可附計
畫下事方ハ注裁之由中有之ハ廢更
ニ不棄圓面ノ通リ改心ハ棄該圓ニ日量ヲ製
先之方可附計 抄高裁トヤ

十九年三月二十日

海軍大臣 齋藤氏名

横須賀鎮守府 長友 宛

海軍省

1380

0860

蘇州府知府 汪 某 啟

十有四年 三月 某 日 蘇州府知府 汪 某 啟

汪 某 啟

汪 某 啟

汪 某 啟

汪 某 啟

汪

蘇州府知府 汪 某 啟

蘇州府知府 汪 某 啟

0860

0861

高雄艦コルク帶試験書

高雄艦面舷水線際ニ充ツハキコルク帶試験物

落成ニ付老ル二月二十六日府下越中島於テ之ヲ試験セリ

此時使用セル砲銃ハ諾典及保知機斯ノ面機砲

ニシテ彈丸ハ右面機砲ノ薬彈及保知機斯榴彈

ノ三種ナリ其射撃ノ巨萬ハ五百ヤードヲ最遠

トシ漸次百ヤードヲ短縮シ三百ヤードヲ最近

トセリ抑モ該試験物試験ノ目的ソルヤ高雄艦

ノ水線際ハ別葉各肋材間ニコルクヲ換充シ之

ヲ水線前後部ニ延長セシメテ一ノコルク帶ト

ナシ小口至砲ノ彈丸命中シテ其貫穿セシ孔穴

ヨリ海水ノ浸入セントスル此コルクノ膨脹

海軍省

力ニ依リ詠又ヲ閉塞セシメ以テ海水ヲ防止ス
 ルノ考案ニ出ルモノナリ然ルニ今此試験之結
 果ニ就テ之ヲ推究スルニ別葉甲乙丙ノ三番
試験材
 ノ新片ニ示スカ如ク鐵板ノ表面ヨリシテ彈丸ノ貫
 穿セシ穴ハ各具彈丸ニ應シタル孔又ヲ秤シ詠
 周圍ノ鐵板ハ内面ニ積壓シ其コルリニ達シテ彈
 丸ノ入口ヨリ十二ミリメートル乃至二十ミリメ
 ートル程ノ所ハ微塵ニコルリヲ破壊セリ而シテ
 此試験物ノ全厚ヲ貫通シテ後部ニ備ヘシ水函中
 ニ入レハ水ハコルリノ細粒ト共ニ彈丸ヨリシテ
 前面ニ漏出セリ又此水ハコルリノ接合間ヲ傳通
 シテ試験物ノ下部ヲ三番
朱線ヲ以テ水ノ通
 路ヲ示シタルコトハニ
 出セリ是レ此部分ニ防水法ノ設ケナキカ故ナリ

右試験物ノ製方タル素ヨリ高雄艦水線際ニ施ス
 ハキコルク帯ニ電モ異ナル処ナリ此結果ニ因テ
 考察スルニ若シ本艦水線際ニ於テ一彈ヲ受ケ此
 コルク帯ヲ貫通スル中ハ海水之浸入スルノ疑ヒ
 ナク然テ此浸入ヲ防カン為メ内部即チ(オ一番)①
 ヨリ栓ヲ以テ之ヲ閉塞セハ其海水ハ前述ノ如ク
 各コルクノ接合間ニ傳通シテ該帯下部ニ至リ帯
 底板(ト)肋材或ハ帯内脊木板(ト)梁耳(ト)ノ間ヨ
 リ漏出スヘシ是等ノ障害ヲ防カンニハ宜ク該帯
 ノ構造ヲ改良セサルヲ得スシテ之レカ改良ヲ施
 ヲルニ於テハ高雄艦ノコルク帯ハ更ニ其効ナリ
 シテ却テ害アルモノ、如シ然ル所以ハ此コルク
 帯ナクトキハ彈丸貫穿ノ孔穴ハ船内ヨリシテ栓

海軍省
 第一〇一
 一〇一

0864

海軍一巻

ヲ以テ海水ノ浸入ヲ防リ事ヲ得ルノ途アリハ

ナリ
然レモ今高雄艦既定ノコルリ帯ヨシテ之ニ完

全ノ改良ヲ加ヘントスルハ為ニ艦体ニ組織

及機装上等ニ大ナル變動ヲ生スルニ付寧口

本艦コルリ帯計画ハ断然廢棄ノ方可然思考

被致候

0865



十九年

書一五三六號

圓面

紙

0866

分割撮影ターゲット

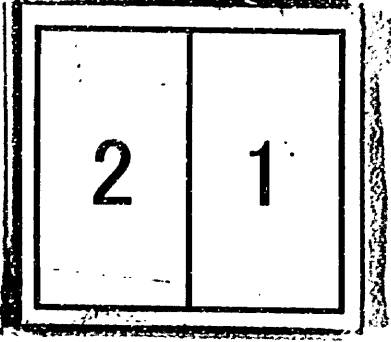
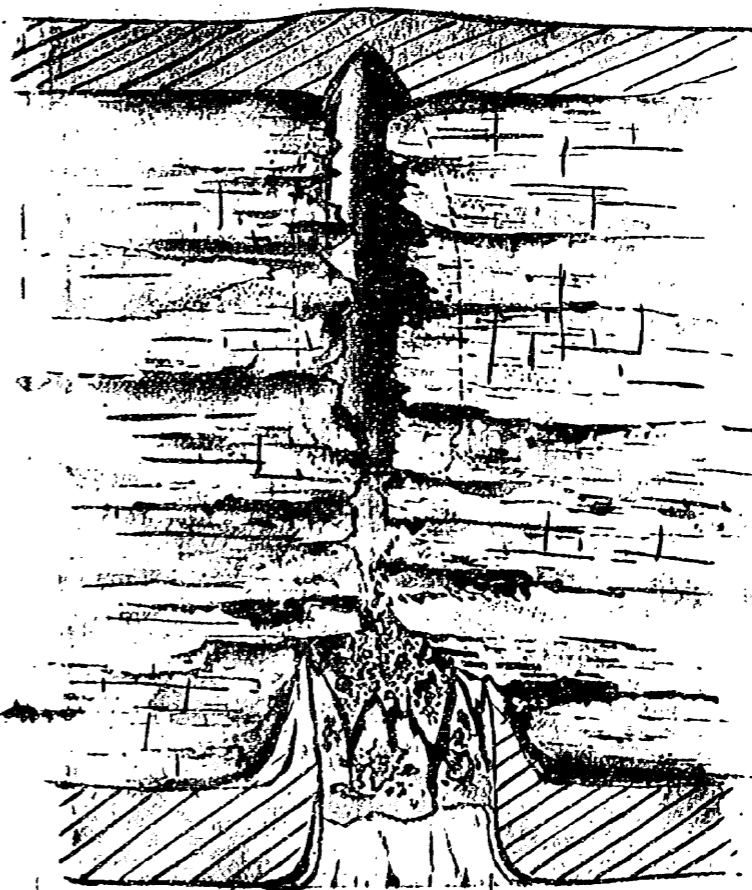
分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 版 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

圖 甲



諾典砲彈丸

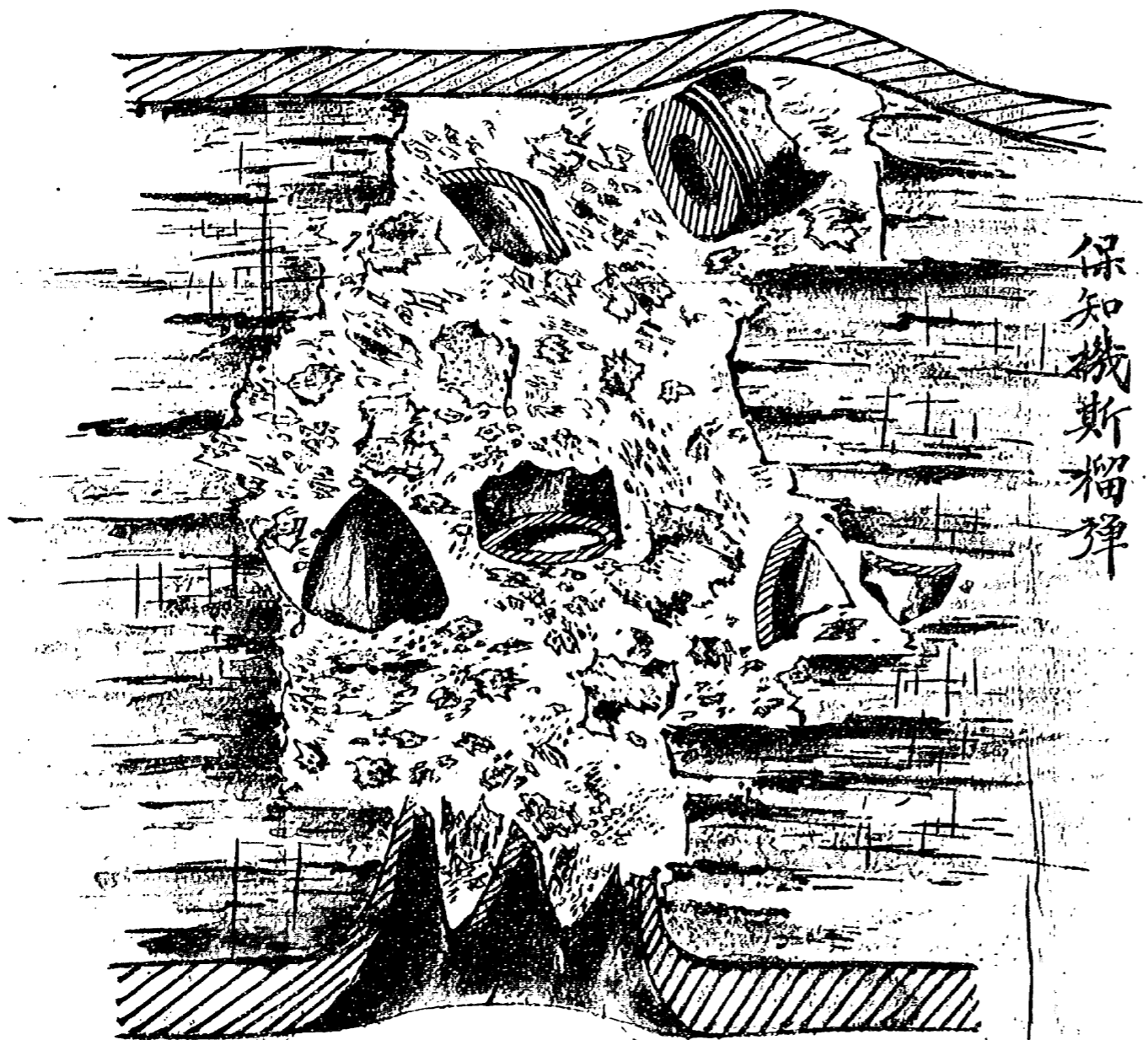
黃銅製彈丸



黃銅製彈丸

0868 0867

圖 乙

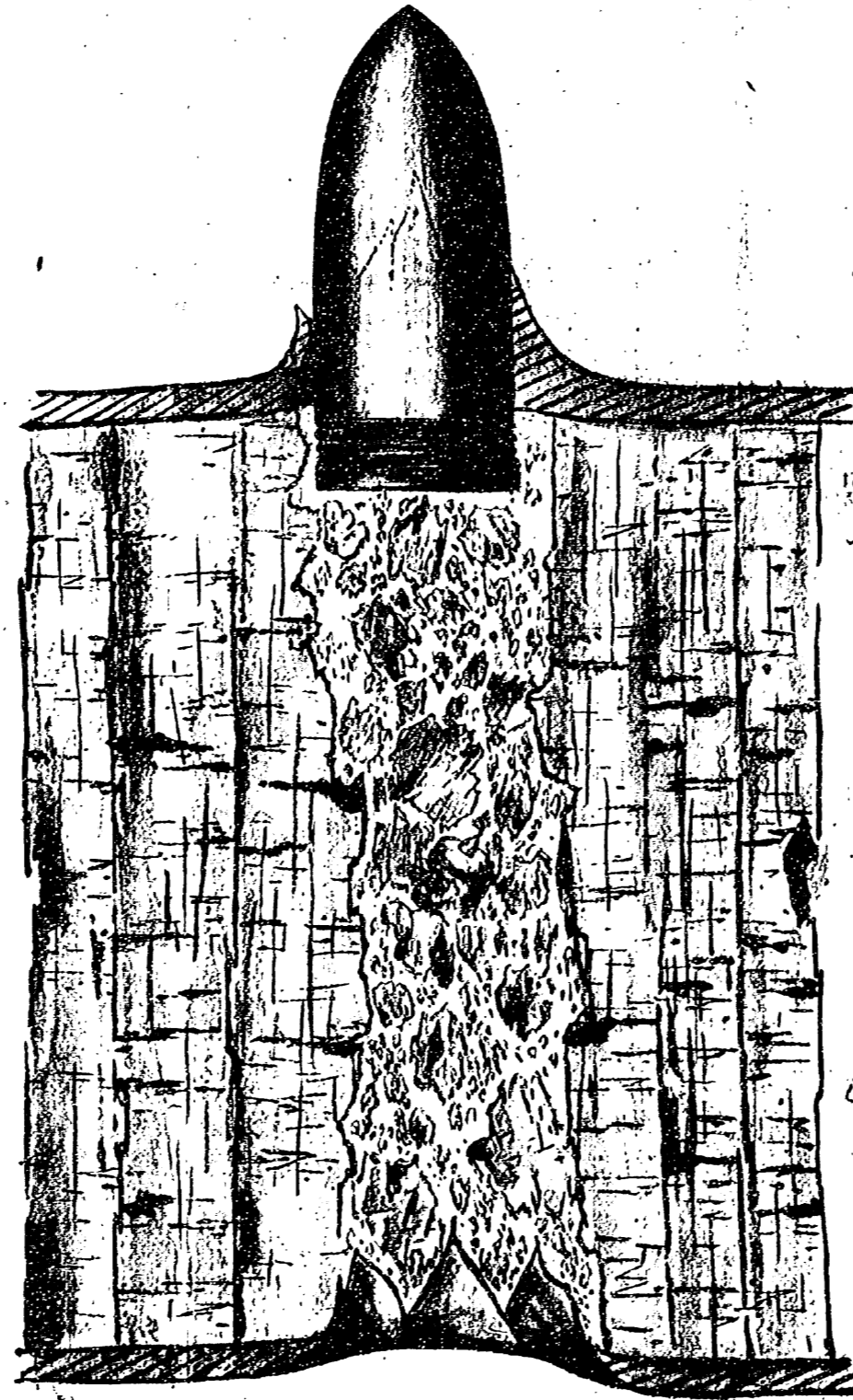


保知機斯榴彈

保知機斯榴彈

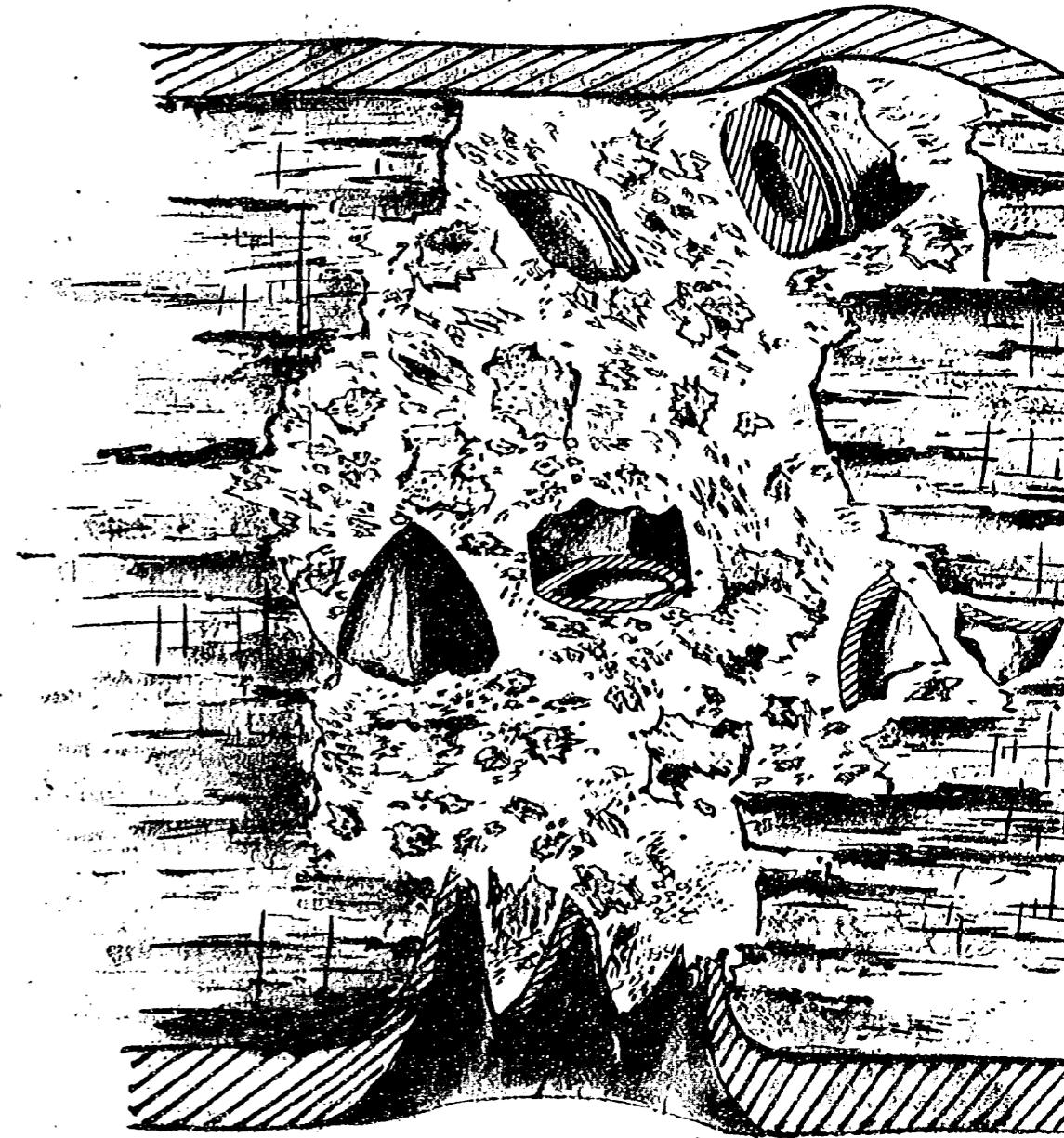


丙 圖



保知機斯榴彈

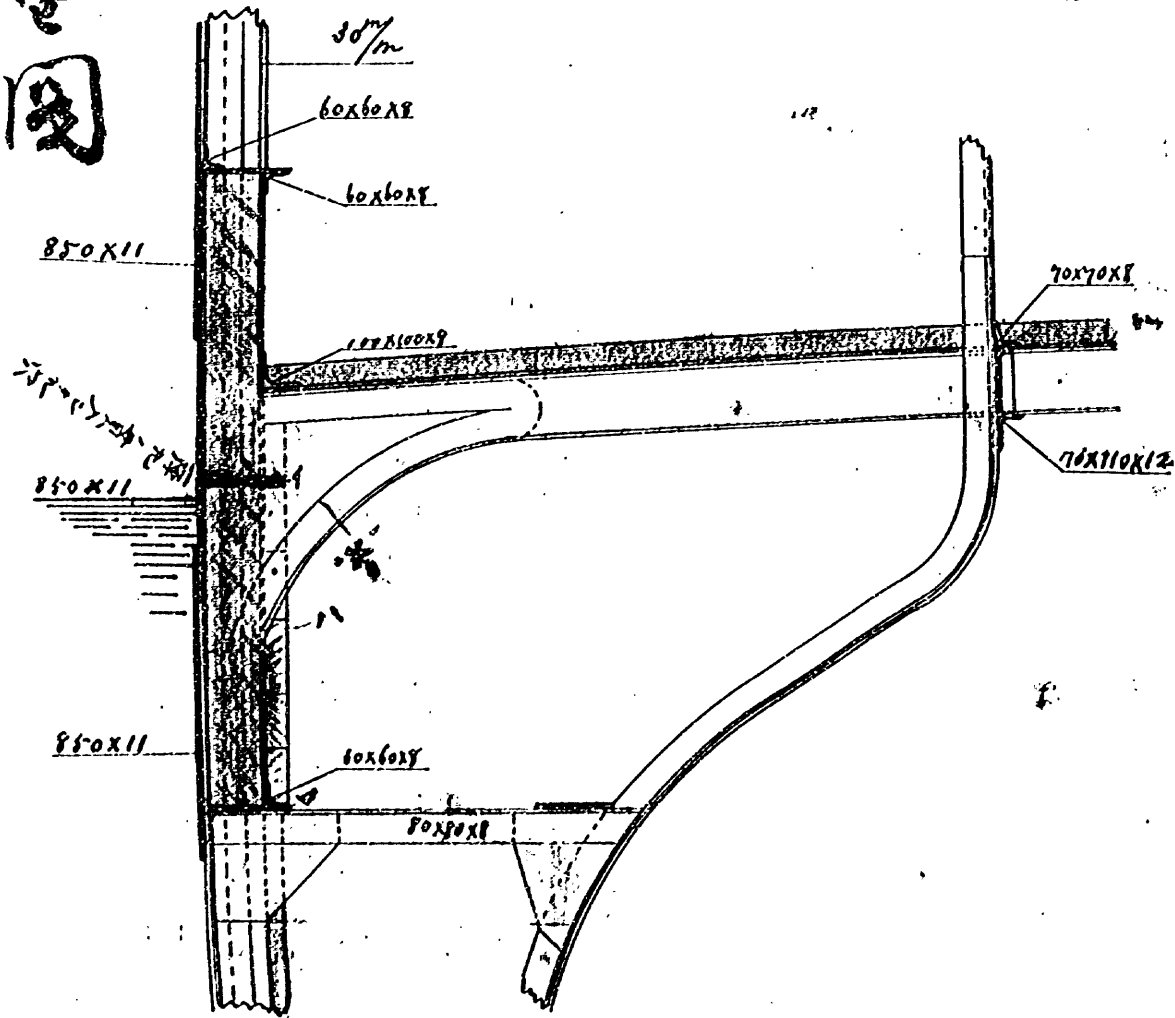
乙 圖



弁臺図

高雄艦中央切断水線近傍コーク填塞之部

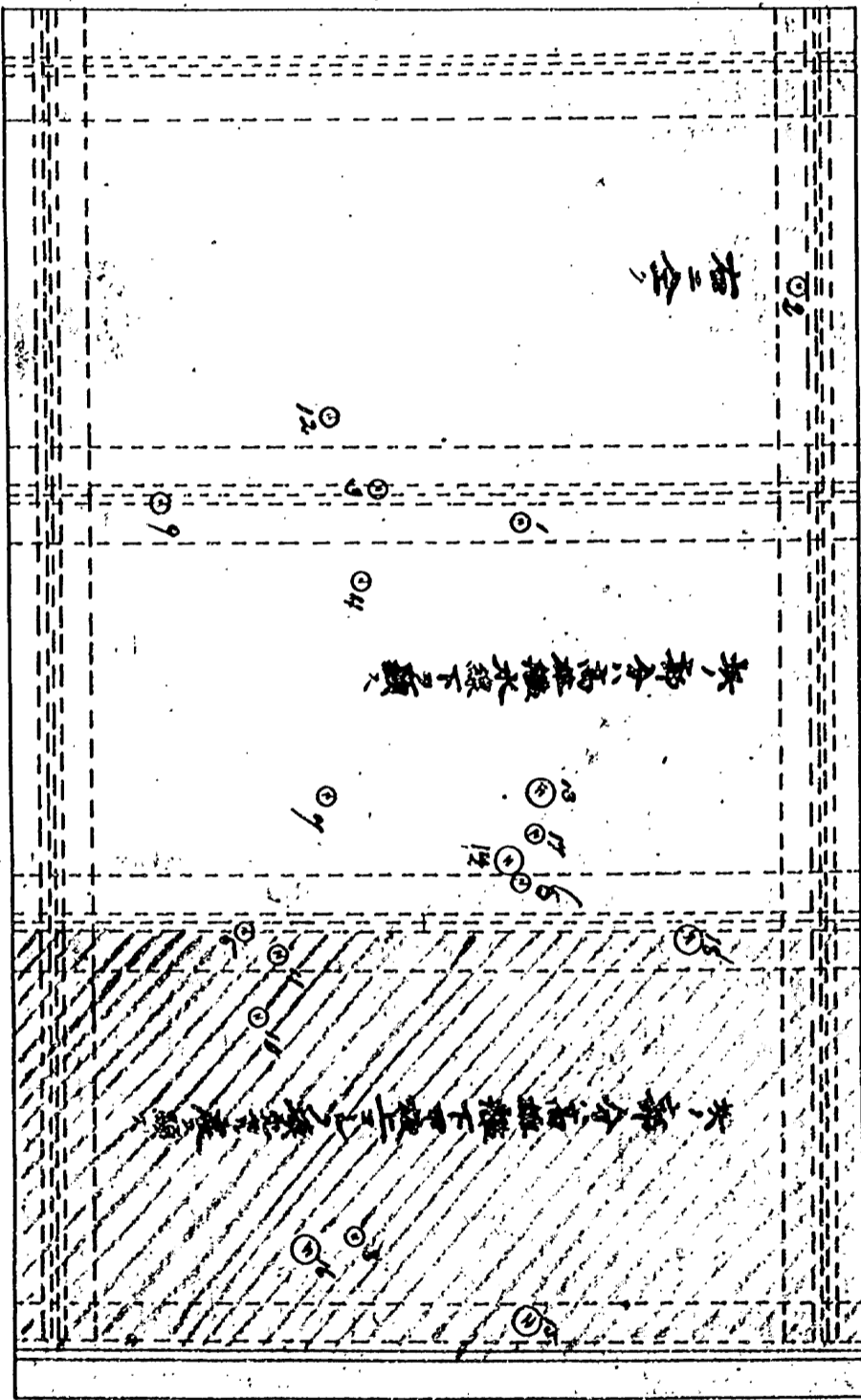
二拾六二



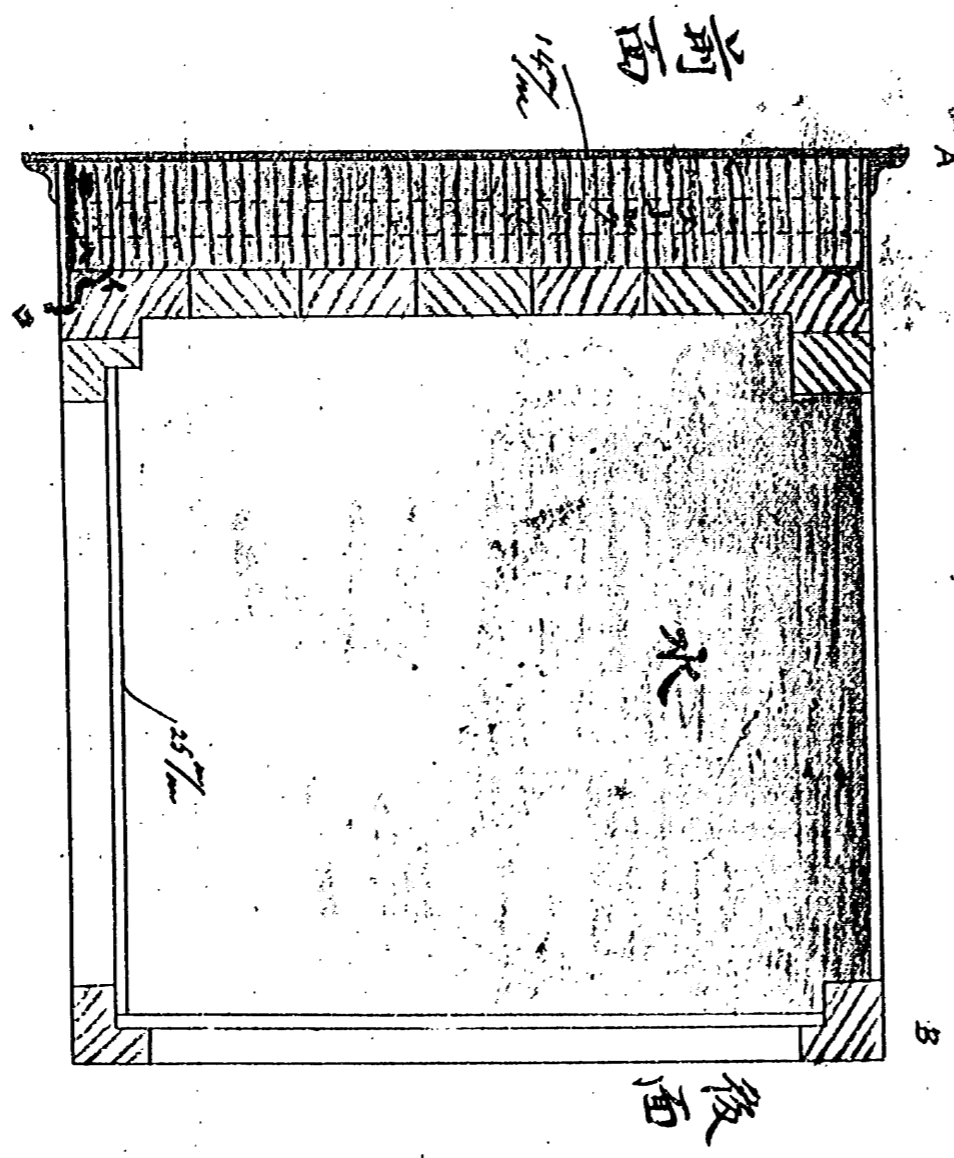
牙直圖

高雄艦艇側より帶壇先試験の正面之面

十八



0870



第三圖
 高雄艦艇側面之試驗的側面之圖
 十八之一

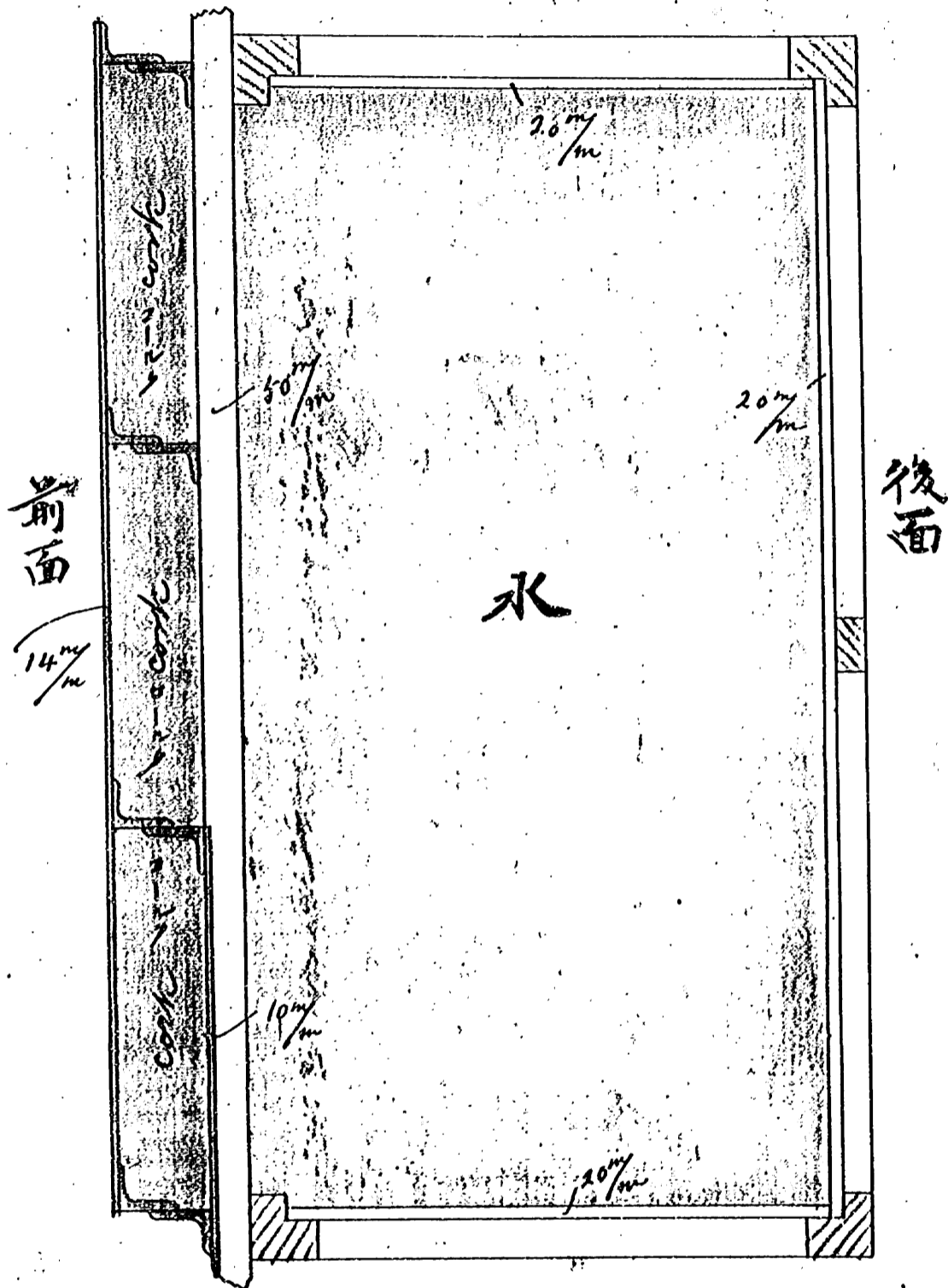
0871

分尺圖

高雄艦艇側コーク帶填充試驗的平面之圖

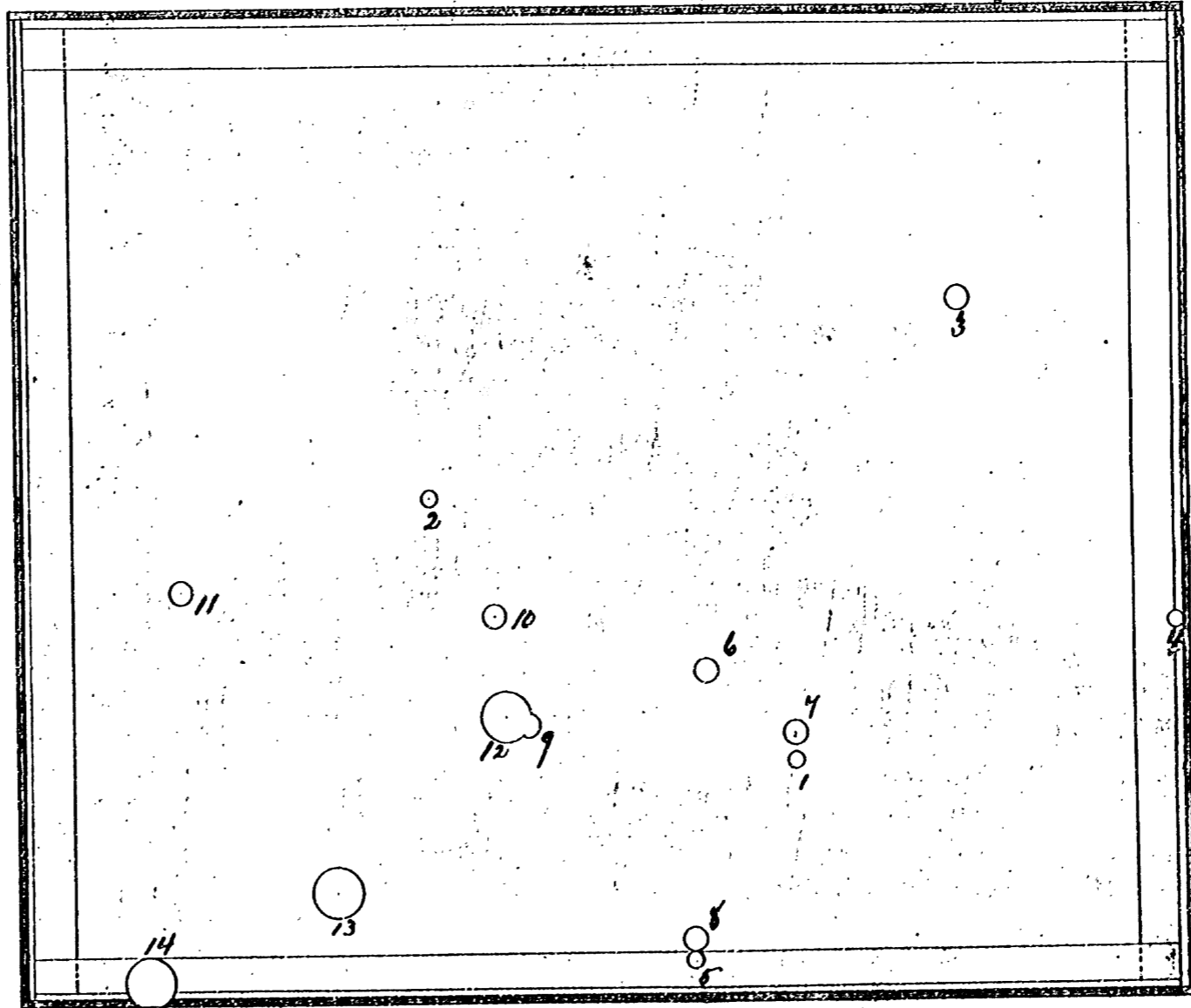
十分之一

0872



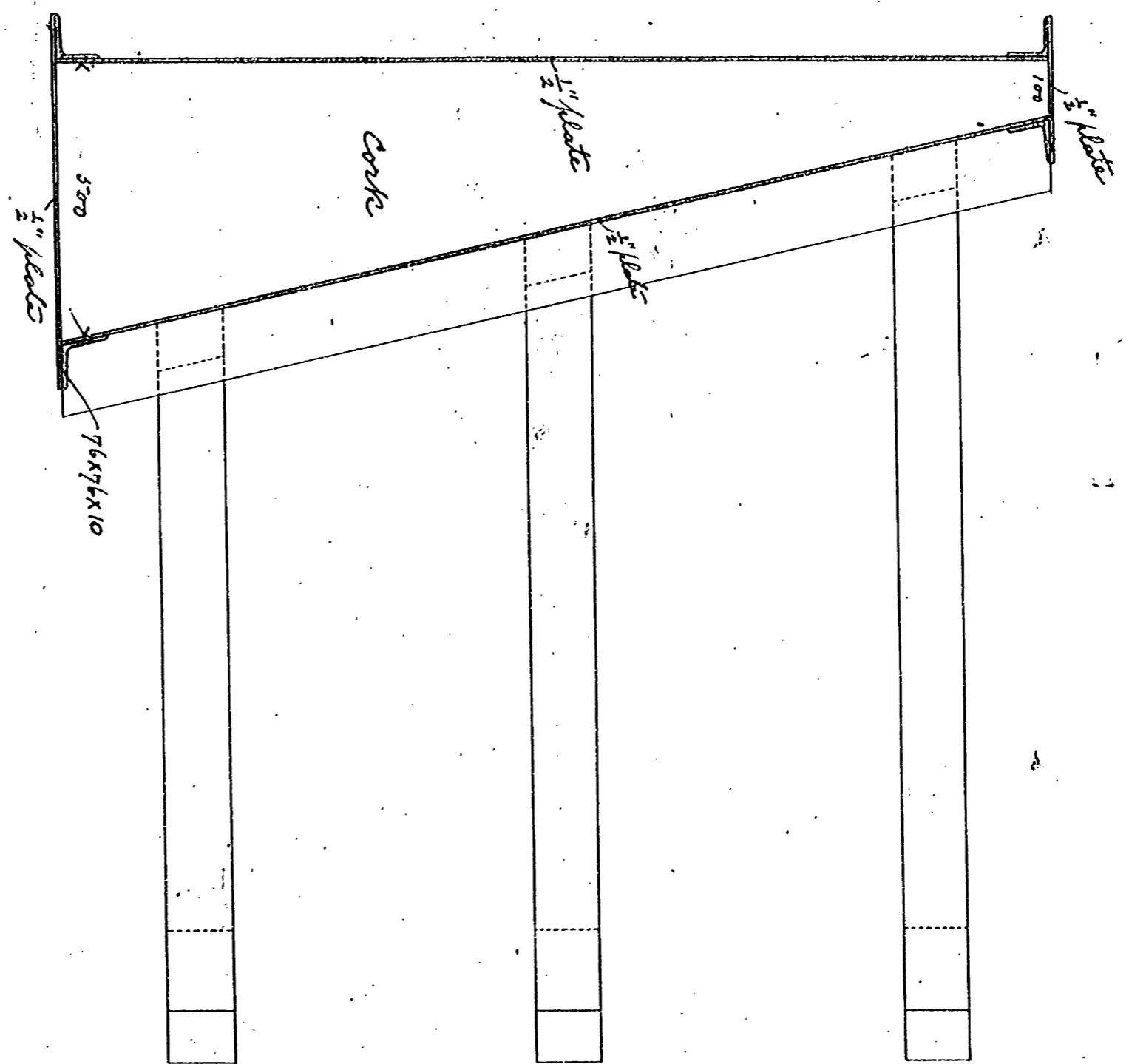
第五圖

オニゴリク墳充試験物正面之面
十一
八
之
一



0873

第三ノ一ノ填充試驗物平面之圖
 十分之一
 第六圖

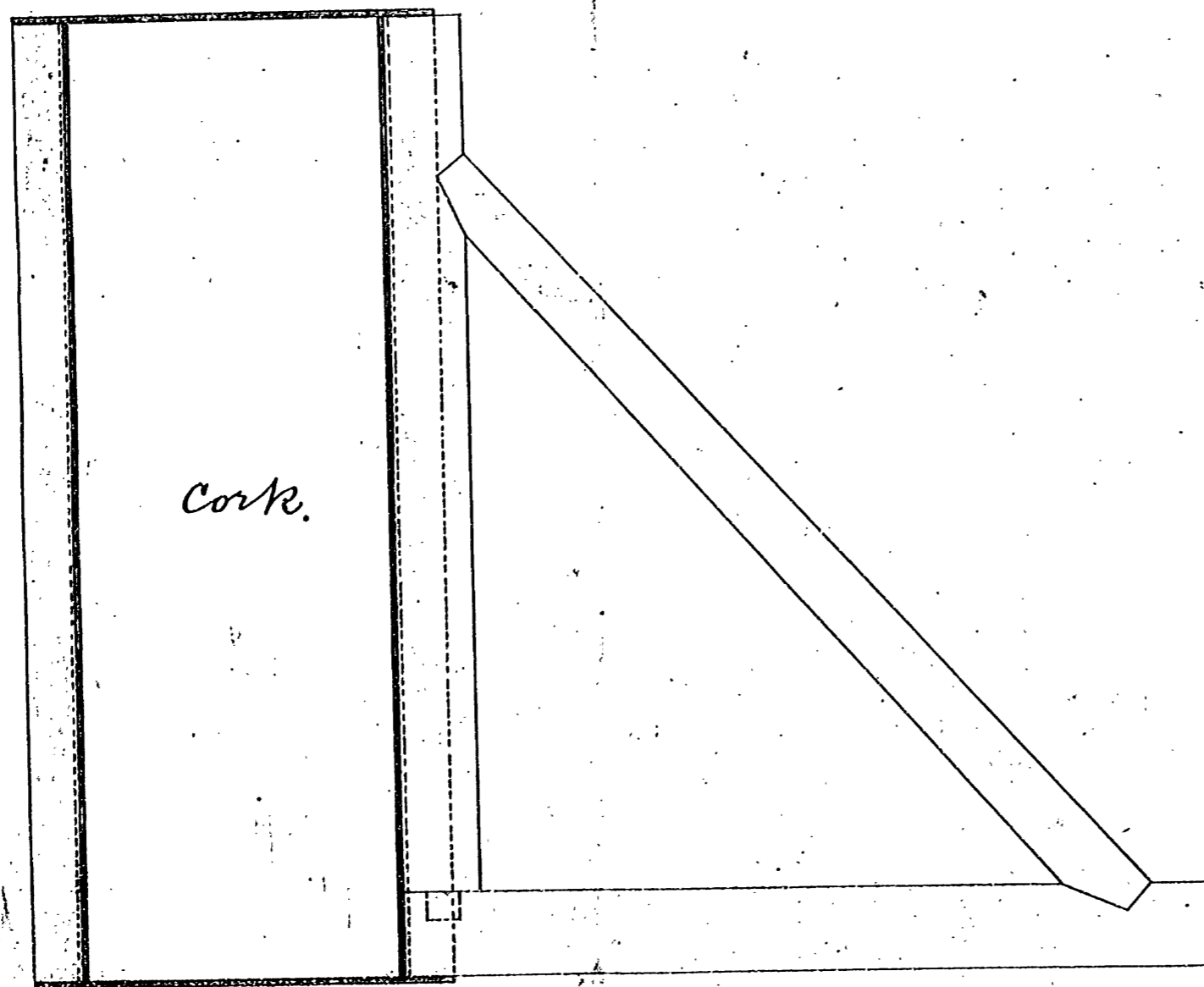


0874

第七圖

オニコーク塊先試験物側面之圖

十分之一



0875

高雄艦コルリ帯試験物射撃手帳

本表ハ各種彈丸洞貫ノ景況ヲ示ス
但第二圖ヲ對照スベシ

第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	獲射番号	砲種	彈種	種	獲射巨高	貫穿ノ度	備考	
第十	第九	第八	第七	第六	第五	第四	第三	第二	第一	一	諾	典	果	彈	五百ヤード	七一ミリ	強復部矩形鉄ニ止マレ	
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	一〇〇ミリ	全	
全	三百ヤード	全	全	全	四百ヤード	貫徹	全	全	二八ミリ	全	全	全	全	全	全	一〇〇ミリ	強復部矩形鉄ニ止マレ	
後部ノ鉄板ニ止マレ	副助材ニ止マレ	後部ノ鉄板ニ止マレ	貫徹彈丸南ノ上ニ 滑出ニベシクシテ止ム	後部ノ鉄板ニ家ニ止マレ 水処ニ卸アル故ナリ	後部ノ鉄板ニ家ニ止マレ 水処ニ卸アル故ナリ	貫徹	強復部水筒ヲ漏ラセリ	強復部水筒ヲ漏ラセリ	強復部水筒ヲ漏ラセリ	強復部水筒ヲ漏ラセリ	強復部水筒ヲ漏ラセリ	強復部水筒ヲ漏ラセリ	強復部水筒ヲ漏ラセリ	強復部水筒ヲ漏ラセリ	強復部水筒ヲ漏ラセリ	強復部水筒ヲ漏ラセリ	強復部水筒ヲ漏ラセリ	強復部水筒ヲ漏ラセリ

母
頁
目

0876

第 十一 全	第 十二 全	第 十三 ホチキツス	第 十四 全	第 十五 全	第 十六 全	第 十七 諾 典	第 十八 ホチキツス
全	全	全	榴 彈 全	全	全	吳 彈 全	榴 彈 全
一〇〇ミリ	貫徹	全	全	不入	貫入	貫徹	八〇ミリ
副肋材ニ止マル	裏木板ヲ壊ル	全	全	前面ノ鉄板ニ止マル	後面ノ鉄板ニ指マル	裏木板ヲ壊ル	副肋材ニ止マル

海軍
兵器

0877

第二試檢物射的表

第 十 全	第 九 全	第 八 全	第 七 全	第 六 ホチキツス	第 五 全	第 四 諾 典	第 三 ホチキツス	第 二 全	第 一 諾 典	護射番号 砲 種 彈 種 護射巨高 貫穿ノ度 備考
榴 彈 全	全	茶 彈 二百ヤード	全	榴 彈 全	全	全	全	三百ヤード	四百ヤード	
全	全	貫入	後部鉄板ノ貫入	後部鉄板ノ貫入	全	全	後部鉄板ヲ指シ	全	貫入	

木表ハ各種彈丸洞貫ノ景況ヲ示ス
但第5回ヲ對照スヘシ

要
目

高雄艦試験射的表中第十番(諾典)第十六番(保知機斯)彈丸
 及第二試験物射的表中第三番(保知機斯)第一第二(諾典)彈
 丸等ノ結果ヲ見ルニ右兩砲試験物ノ後面鉄板ノ部ニ命中セル
 諾典彈丸ニ於テハ前後鉄板ヲ貫通シ得ル能ハスシテ其強勢
 ナルモノハ少シク後面鉄板ニ丸頭ヲ入ルニ止マリ又弱勢者
 ハ唯鉄板ニ邂逅セラルノミ然レモ全巨砲ニ於テ發射シタル保
 知機斯彈丸ニシテコクル中ニ破裂セスシテ後面ノ鉄板マテ達
 スル者ハ其ノ板ヲ貫キ僅通スルイ多シ此結果ニ由テ考察ヲ
 下ストキハ今仮リニ一艦ヲシテ高雄艦ノ如キコルリ帯ニアラ
 サル真ノ塞水コルリ帯ヲ附シ少シク此帯ノ全厚ヲ増加ス
 ルカ若クハ後部鉄板ノ厚ヲ少シク増加スレハ保知機斯
 砲丸ノ中善ハ免レ得ルモ單ニ諾典砲丸ノ中善ヲ防禦ス

ルノ切之レアラニカ依テ新ノ如キゴルリ帯ノ設備モ又全
魚用ニアラサルズシ

海軍省

0881

急

三月廿二日

高雄甲 乙 辨 會場 第六七號

登録印

淨寫 校合 發付日

官房長 課僚

主務 聯帶

明治十九年三月廿日

大臣 次官 樺山

主務

船政局長 伊藤 六品 祿長

會計局長 出 利 祿長

庶務長

並二三三ノ一ノ高難船魚形水雷物あり

治備しきを見

不低高難船魚形水雷物あり治備し件
あり本艦共あり未了なり
六社ノ一ノ書ノ一ノ看ノ一ノ夜ノ一ノ

毎 頁

0882

海軍省

要出納帳簿

一、

二、

三、

四、

明治三十四年十一月廿七日

中

書面

十九年三月十六日

船六橋才五号二

0883



普三元
三月五日

三八 一八

兵器課

受付二月五日

高雄日録 乙 歸

三ノ五

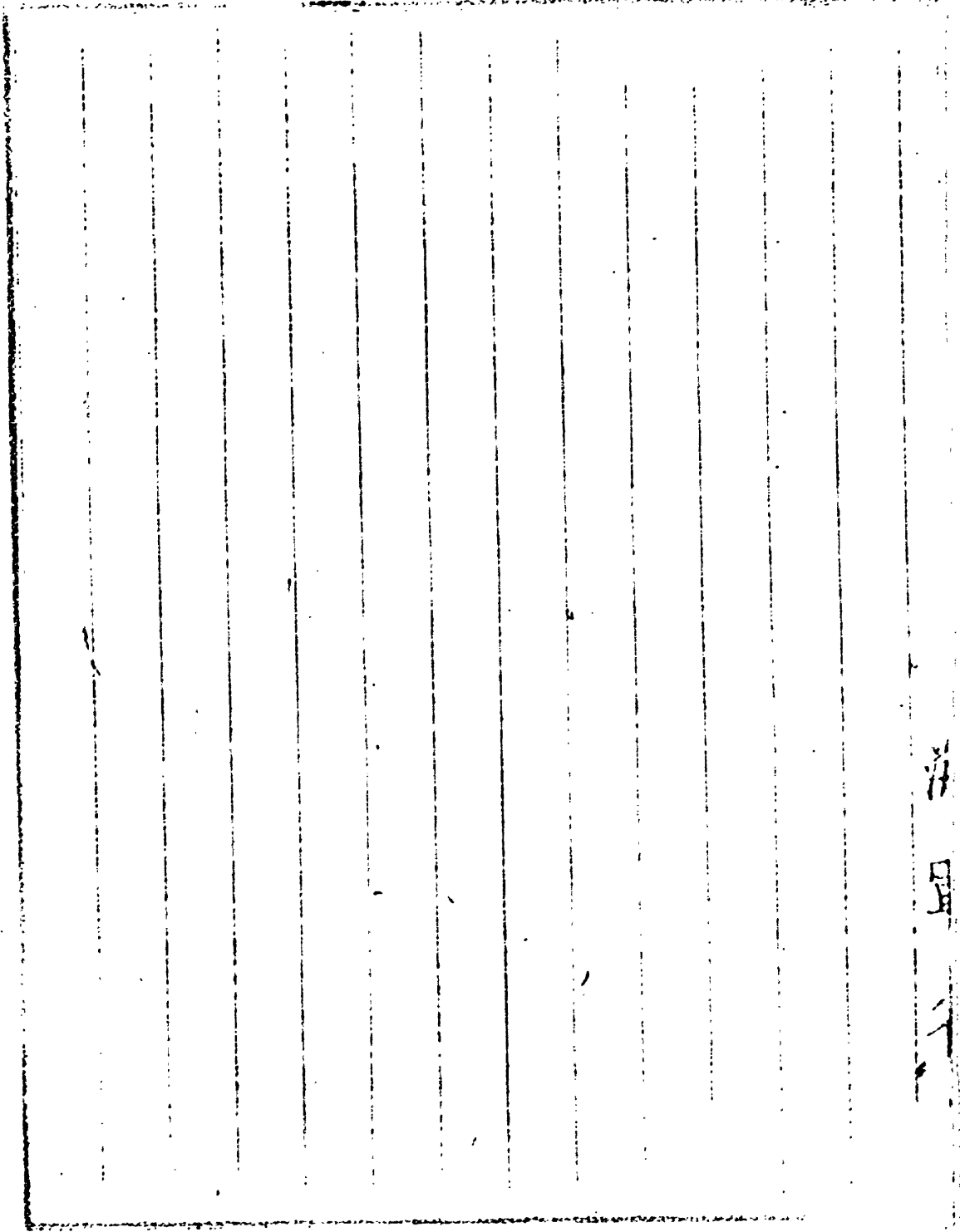
高橋経兵衛様
此書あり
三月五日
高雄日録
乙
歸

三月十日

西平大佐御信

西平大佐御信

0884



漢
書
卷
九
十
七

0885

水甲牙五八号

高野龍王乃水智多具波海之系

乃其子

高野龍王乃水智多具波海之系
乃其子
高野龍王乃水智多具波海之系
乃其子
高野龍王乃水智多具波海之系
乃其子
高野龍王乃水智多具波海之系
乃其子
高野龍王乃水智多具波海之系
乃其子

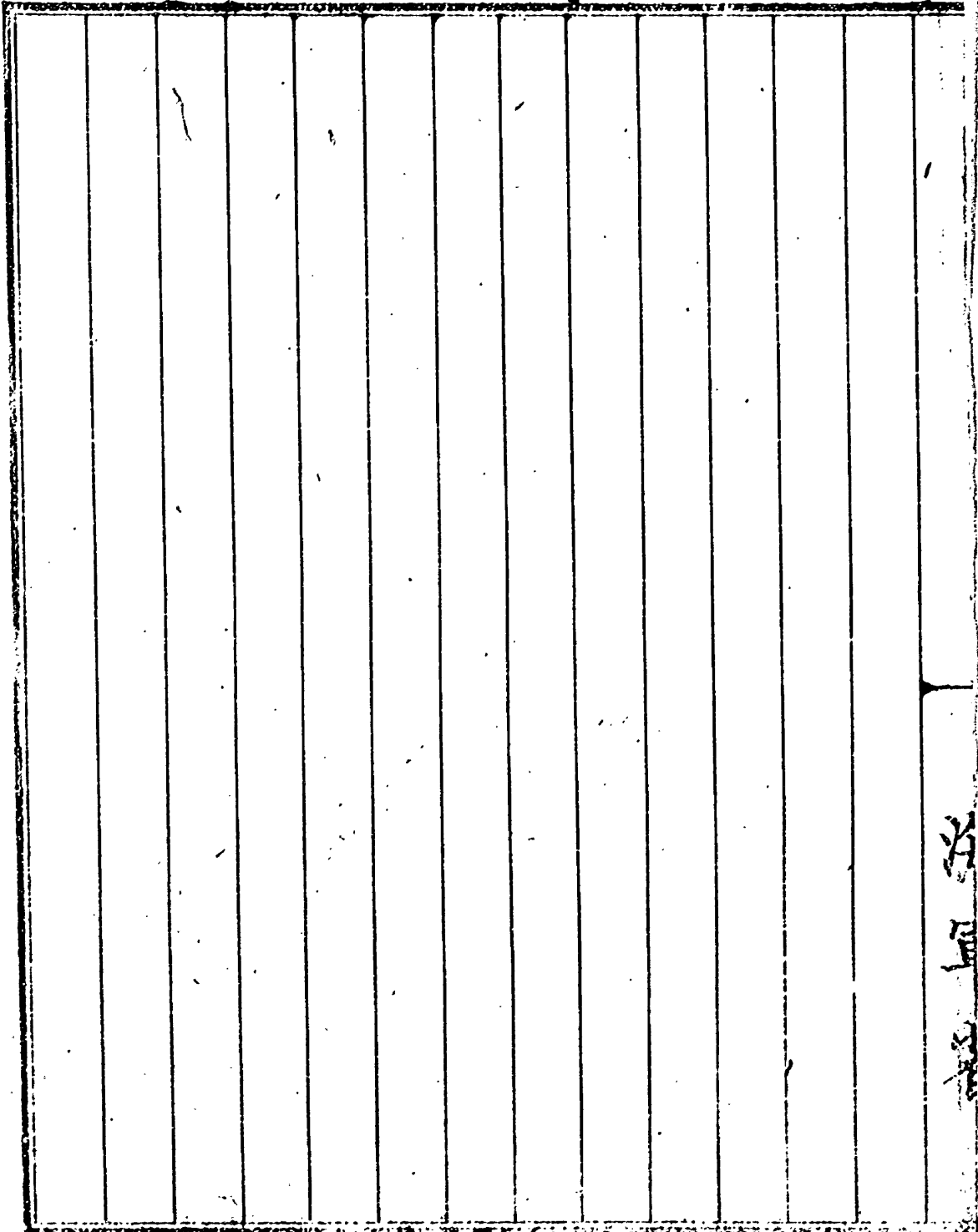
長浦水智多具波海之系

長浦水智多具波海之系

三ノ八

毎

0886



--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

洋
頁
拾

0887

高雄艦、備付、水中雷要具品目

一 魚瓶水雷發射官式	内 収	計 何	六千七百三拾五圓四角
	一 氣蓄罐 式式	計 何	
	一 裝填器 式式	計 何	
	一 發射官附屬要具箱 式式	計 何	
一 警音筒水雷		計 何	計 四千四百圓
一 コロノグラフ		計 何	三千五百圓
一 方位盤		計 何	二千九拾圓
一 潜水機		計 何	千五百圓
一 發射官要具試驗器		計 何	五百圓
一 改修帶杖		計 何	六百圓
一 トリール		計 何	三千拾圓

海軍省

0888

				一魚形水雷維持棒		一車	拾四
				一釣りよみ用籠		一舟	拾四
				一魚形水雷發射管履		一舟	三拾四
				一ハリスライセル		四條	拾四四拾五
				一テールライセル		四條	拾四四拾五
				一發射管手入箱		一舟	五拾
				一電氣燈	一舟	五拾	
				一發射櫃	一舟	拾五拾七拾八拾九	
				一魚形水雷標的筒	一組	五拾三拾四拾五	
				一空気壓探知筒	一組	拾五拾七拾八拾九	
	内訳						
	一船内用華壓探棒				一揃		
	一直筒製シヤハフ	五五三			四舟		

0889

消費目録

一 革のツエヤ	松四匁	
一 革蓋器のヤルボア	売組	子。七松。売。四
内 鉄		
一分器器のヤルボア	売組	
一 装気柱のヤルボア	売組	
一 壓力計 <small>プレッシャーゲージ ヤルボア</small>	九匁	
一 空気管 <small>伴助器品</small>	松五匁	七。八。松。五。四。七。松。七。匁
内 鉄		
一 丁ボリス	五匁	
一 ストップコックのヤルボア	松四匁	
一 ロリコック	松六匁	
魚形水留用豫備品		
一 スプリング	松九匁	初。初。身

0891

「トキキグク」用「カ」		之揃	七四九七五
	「トキキグク」用「カ」	之揃	
	「トキキグク」用「カ」	之揃	
	「トキキグク」用「カ」	之揃	
	「トキキグク」用「カ」	之揃	
	「トキキグク」用「カ」	之揃	
	「トキキグク」用「カ」	之揃	
	「トキキグク」用「カ」	之揃	
	「トキキグク」用「カ」	之揃	
	「トキキグク」用「カ」	之揃	
	「トキキグク」用「カ」	之揃	
	「トキキグク」用「カ」	之揃	
	「トキキグク」用「カ」	之揃	
	「トキキグク」用「カ」	之揃	

収録

七四九七五

0892

一 山羊革のバックレグ用			三枚	六両四匁八分五厘
一 山羊革のバックレグ用			三枚	六両四匁八分五厘
一 山羊革のバックレグ用			三枚	六両四匁八分五厘
一 山羊革のバックレグ用			三枚	六両四匁八分五厘
一 山羊革のバックレグ用			三枚	六両四匁八分五厘
一 山羊革のバックレグ用			三枚	六両四匁八分五厘
一 山羊革のバックレグ用			三枚	六両四匁八分五厘
一 山羊革のバックレグ用			三枚	六両四匁八分五厘
一 山羊革のバックレグ用			三枚	六両四匁八分五厘
一 山羊革のバックレグ用			三枚	六両四匁八分五厘
一 山羊革のバックレグ用			三枚	六両四匁八分五厘
一 山羊革のバックレグ用			三枚	六両四匁八分五厘
一 山羊革のバックレグ用			三枚	六両四匁八分五厘
一 山羊革のバックレグ用			三枚	六両四匁八分五厘
一 山羊革のバックレグ用			三枚	六両四匁八分五厘

0893

								一ツギニダリノカケ 一ツツシメ用針金 一ツツシメ用針金
							魚取水留備品	
						一ツツシメ用針金		
						一ツツシメ用針金		
						一ツツシメ用針金		
						一ツツシメ用針金		
						一ツツシメ用針金		
						一ツツシメ用針金		
						一ツツシメ用針金		
						一ツツシメ用針金		
						一ツツシメ用針金		
						一ツツシメ用針金		
						一ツツシメ用針金		
						一ツツシメ用針金		
						一ツツシメ用針金		
						一ツツシメ用針金		
						一ツツシメ用針金		
						一ツツシメ用針金		
						一ツツシメ用針金		

0894

一 ブラザーヤ	一 フライヤー																				
一 フライヤー切																					
一 フライヤー切																					

洋貨部

0895

一 アイロニキニア <small>ぬま子四外至四 子三長器キ十</small>	一 右附属製ワシゲ	一 右本 ワワシヤレ	一 スクルードラバ <small>但セツト フル用</small>	一 水櫃	一 鋼製丸棒	一 鋼製櫃	一 鉄櫃	一 フニハスレ	一 鋼製アイボルト <small>大小</small>	一 真鍮製油管	一 箱取	一 ブラシ
売何	売何	売何	売何	売何	売何	初換	売何	初換	初本	売何	売箱	三本
	売何		三物五本	初換	四物五本	初田	売田	初田	三物	初田五本	石田	売田五本

海軍省

一 鉄葉製油差	一 空気抜南 <small>（付）</small> ア 付ア 付ア	一 彈底油差 真箭製	一 手方力	一 小取取附方力	一 新	一 スヤンライマ	一 L形定規	一 小取ア ア ア	一 水車器	一 ア ア ア	一 ス ア ア	一 大取方力
売何	売何	売何	売何	売何	売何	売何	売何	売何	売何	売何	売何	売何
八拾五	拾五	拾四	拾五	拾五	拾五	拾五	拾五	拾五	拾五	拾五	拾五	拾八

一 手入レ臺	売何	三拾四
一 濁整臺	売組	三拾四
一 尾框用ハコルラー	売何	三拾
一 ストラップ	拾何	三拾五拾
一 釣竹ヶ華製帯	拾組	拾五拾
一 右用釣竹棒	四本	
一 掃陽油多大巾	三何	拾四
一 カリーハアームレぬ外至	売扱	拾四五拾
一 レギエート用金類	売何	拾五拾
一 クラシフ	売何	八拾
一 漆漆調理器	売式	八拾五拾
一 西洋権衡	売何	五拾四
一 牛足脂罐真鍮製	売何	五拾

毎頁

0898

洋具

一石油罐

売何 五円

一混合油罐

売何 五円

合計金 三万三千九百八拾四円五拾八匁五厘

外装水雷并掃海探海要具

一外装水雷罐

計 拾四何 七市計拾四

一掃海要具

計 拾組 四拾四

一探海要具

計 拾組 四拾四

合計金 八万四

總計金 三万四千七百八拾四円五拾八匁五厘

0899

官房記録

陸

艦政局長代

圖

造船課廻

陸

横鎮一第 之二七號ノ乙

高雄甲第一 一號

普六四
二月九日

艦政局

不
及
作
覽

工
事
景
況
表
尾

高雄船塢工事景況表尾
ノレハ工事景況表ノ中ニ添付スル
昭和三十一年二月九日

横須賀鎮守府司令官官舎中書屋ノ

横須賀鎮守府
中書屋
印

海軍少佐室五郎 榊山澄紀 敬

海軍省

0300

言鏡甲第

辦

言鏡甲第九

普三七八
言鏡九

淨駕 豐校合
川櫻 發付
七月廿日

主務 團

佐渡

秘書官 春宿

聯帶 代

明治三十年六月廿七日

決 大臣

次官

主務

艦政局長 代

造松課長

主任 裝課長

主任 課長

代

高雄艦計畫圖中提橋改正之件

鎮守府ハ少洲合案

高雄艦前後二橋之取上橋及橋樑

鋼鐵製ニ構造スベシ

但テ橋改正ニ係ルモノハ艦政局分回送セシム

宣

0902

海軍省

且右改正に依り生るゝの費豫算額亦同届出

ズシ

大正

二十年七月廿二日

海軍省

横濱鎮守府司令官官記

理由 高雄艦前後二橋ハ木製ニ計畫ニ依

橋樑ヲ釋砲据付ニ工事困難ニシテ且保

存上ニ付テモ且最下橋及橋樑ヲ鋼製ニテス

方利益不少多ク付山際本案ニ由リ鎮守

府ハ以テ訓令ヲ申付候

但改正に依り生るゝ増費ハ凡金千四百円程

是迄ニ付テ

0903

高雄甲第一〇號ノ四

高雄甲第一〇號

淨馬 校合

發付 十月六日

主務

秘書官

聯帶

普四七九
九月六日

明治廿年十月日

主務

大臣

次官

代理

艦政局長

造松課長

兵務課長

機関課長

儀裝課長

普四七一九ノ二ニ付參謀本部ニ以テ回答

高雄艦扼橋改正方ニ付參謀本部ニ以テ回答

編、二ヲ以テ以テ各官ノ條目艦ノ電氣

燈及連射砲増備方ニ付參謀本部ニ以テ回答

延新艦ノ義、元計画ニ付參謀本部ニ以テ回答

海軍省

0304

海軍省

至り進ぐ搭載物品等ヲ増加セシ爲メ
容積並ニ排水量等ニ余積増シテ
余張現計画ニ適ラズ
是レ
余積係以テ知ル
申達
申達

在年十月十六日

大佐

海軍省部長 宛

0905